平成３１年度（令和元年度）

明神小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

① 主体的に学習に取り組み，表現できる児童の育成

② 幼小中一貫教育による，系統的・継続的な指導方法の工夫

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 大門　政憲 （教務主任）	**委員**　校長：中野　裕文 教頭：平野　貴義 教諭・中妻かおり（低学年担当・研修主任） 教諭・小野　未来（中学年担当） 教諭・立本　恵理（高学年担当）

鳴門市明神小学校長

中野　裕文　印

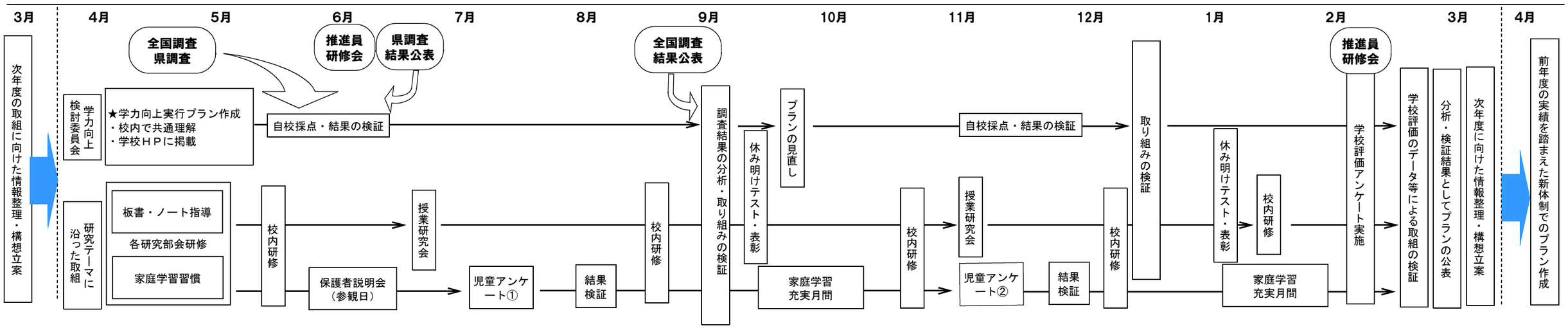
（１）基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	朝の活動の時間や授業中は，与えられた課題に対して真面目に取り組むことができる。 基本的な計算等については繰り返し学習により一定の成果が上がっている。	基礎・基本（計算・漢字）を確実に身につけている。 正しい言葉で文章を読んだり，書いたりすることができる。	家庭学習の提出率を90％以上，基礎的・基本的な事項についての確認テスト（計算・漢字等）で正答率を学級の80％以上とする。	国語科をはじめとして各教科で「書く活動」を出来る限り取り入れることにより，各学年の発達段階に応じて，正しい漢字や言葉づかいができているかを確認する。	①隔週月曜日と毎週火曜日・金曜日の朝の時間，計算練習や漢字練習，読書及び確認テストに取り組んだ。 ②ドリルやスキル，プリントなどを用いて，その日の学習の復習ができるような宿題を毎日出すようにした。	①学年や単元にばらつきがあるものの，確認テストの学級平均は80％を上回ることができた。 ②家庭学習の提出率は約85％と，目標をやや下回った。学年が上がるほど，提出率が下がる傾向にある。
		具体的方策（教員の取組）	**取組指標**		**評価**	**次年度における改善事項**
課題	文章を書く時に漢字を使わない，ものさしを使わないなど，丁寧さや正確さに課題がある児童がいる。	①朝の活動を計画的に活用し，反復練習時間を確保する。 ②宿題の提出状況の把握と，放課後等を活用して個別指導を行う。	①朝の活動の計画的充実（計算・漢字・音読・読書など）や確認テストの実施をする。 ②毎日宿題をほぼ全員が提出する。		B	・全児童が家庭学習を必ず毎日提出できるよう，宿題の量や質などを再検討していくことが必要である。また，宿題を提出しない児童には，放課後などを利用して学校で取り組ませたり，その学年にT．Tで関わっている教員も一緒になって声かけしたりすることにより，提出率を上げていく。

（２）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	自分の考えを持ち，進んで発言しようとする児童が多い。 友達などのよさに気づき，文章を書くことができる。	話す・聞くなどの基本的な学習態度を身につけている。 根拠や目的を明確にし，自分の意見を表現することができる。 学んだ知識，実験，観察，体験の中から判断・思考する材料を見つけることができる。	「自分の考えを根拠や理由を明確にし発表することができた」「振り返りカードなどに自分の思ったことを（学年に応じたねらいで）文章に書くことができた」と答える児童が学級の80％以上とする。	スクールワイドＰＢＳの手法を用いて，話し方・聞き方の具体目標を立てて取り組む。 また，朝会でよくなったところをしっかり誉めることにより，児童に目標の達成感を味わわせるとともに，自己有用感を高めるようにする。	①朝の会や帰りの会などの時間を使って1分間スピーチに取り組んだ。 ②授業中の視覚的支援を増やし，分かりやすい授業づくりを意識した。 ③学級会や代表委員会で，話し合い活動を充実させた。	①スピーチを取り入れることで，話を聞く態度や自分の思いや考えを伝えることが少しずつできるようになってきた。 ②視覚的支援によって，１時間の授業に見通しがもて，集中して授業に取り組むことができつつある。 ③学校生活をよりよくしたいという気持ちが高まっている。
		具体的方策（教員の取組）	**取組指標**		**評価**	**次年度における改善事項**
課題	教師や友達の話を最後まで聞くことができない児童がいる。 正確に文章を読み取る読解力や思考力，表現力が弱い。 何となく問題を解いており，なぜそうなるか説明できない。	①教室に掲示してある「話し方・聞き方のポイント」を活用して指導を行い，日記や1分間スピーチなどの機会も設ける。 また，視覚的に分かりやすい授業（電子黒板・ノート・板書）をする。 ②適切な指導法を教師間で共通理解し，一貫性のある指導をする。 ③特別活動における自発的・自治的活動を推進する。	①「聞く，話す，書く」について2カ月に一度振り返りシートを書き，PDCAを行う。 ②校内研修等で指導法の共通理解をする。 また，幼小中と連携することで，指導の一貫性を図る。 ③学級会，代表委員会，元気っ子班活動で話し合い活動をする。		B	・幼小中一貫教育で「すくすく瀬戸っ子成長の記録」を作成し，「話し方や聞き方の定着」「国語や算数の基礎的内容の理解度」などについて9年間の学習の学びを共有していくことで，スクールワイドPBSの活用と合わせて幼小中の教職員の指導のさらなる一貫性を図る。 ・自分の思いや考えを伝えられるように，「話す」「書く」活動を日常的に取り入れていく。活動後には，自己評価の他にも友達同士による評価などを行い，お互いのよさを認め合う場を設定する。 ・学級会が教師主導になった学年もあったので，子ども主導による学級会（話し合い活動）ができるよう，話し合いカードを作成して活用する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	得意なことは，何度も挑戦できる。やらなければならないことは，やり遂げようとする。素直に指導を受けることができる。	主体的・対話的な活動の中で，自ら課題を見つけ，意欲的に学習する。 進んで自分の考えを表現しようとしたり，自主学習をしようとしたりする。	学習アンケートを実施し，「苦手なところを進んで自主学習することができた」と答える児童が学級の80％以上とする。	学年便りや学校便りなどを通して，必要な学習道具を全校で統一できるように啓発していく。また，自主学習の手引きを作成・配布して，児童が意欲的に取り組めるようにする。	①中・高学年で，自主学習に取り組んでいる。低学年は，漢字・計算・音読などを中心にした宿題を出し，自主学習の基礎づくりをした。 ②児童の努力を誉めると同時に家庭にもお知らせした。	①自主学習の提出率は70～80％であった。自分で課題を見つけて取り組めるようになりつつある。 ②様々な教職員による声かけにより，前向きに努力しようとする姿が見られるようになってきた。
		具体的方策（教員の取組）	**取組指標**		**評価**	**次年度における改善事項**
課題	自主的に学習する態度が身についていない。苦手な問題はあきらめがちで，もっと学習したいという向上心に乏しい。	①家庭学習の手引きを配布し，自主学習の取り組み方を全児童に周知し，優れた自主学習の取り組み例を紹介する。 ②誰もが認められる雰囲気のある学級経営をする。	①毎月の学校・学級だよりや懇談などで広報し，家庭との連携を図る。 ②1カ月に1度は，学級すべての児童の意欲的な活動を賞賛する。		B	・毎日の授業における課題解決で，「一人で考える」「グループで考える」「みんなで意見を共有する」という3つの過程を大切にすることにより，支持的雰囲気のある学級経営に努めていく。 ・自主学習については，「自主学習の手引き」の積極的活用を図ることにより，児童が課題を設定して取り組めるようにする。そのためにも，年度初めに自主学習についての指導を行う。

平成３１年度（令和元年度）　学力向上ロードマップ